



▲専用ケースを手にした河野さん。「學舎」「分教場」・・・年表に登場する学校の呼び名も様々です。

小・中学校沿革史が完成

市内加藤上にお住まいの河野豊彦さんが市内小・中学校の変遷をまとめた年表を完成させ、市内各学校、公民館などに寄贈されました。特注の専用ケースに入れられた年表は明治5年に学制頒布されてからの各校の変遷が一目でわかる貴重なものです。「地域の歴史をひも解く手引書として活用してもらえたら」と河野さんは話していました。



▲受賞を喜ぶ長岡会長（中央）、坂野副会長（右）、冨永副会長（左）。

「すばる会」県きらめき財団理事長表彰

市内の町おこしグループ「すばる会」が、やまぐち県民活動きらめき財団の理事長表彰を受賞されました。「すばる会」は「のびー有帆」「高泊壮青年団」「本山会」の3団体で設立され、「やけの美夕フェスタ」「夏休み造形教室」などの全市域を対象とした活動を行っています。長岡会長は「地域みなさんに参加していただき、これまで以上に活動の和を広げていきたい。」とこれからの抱負を話していました。

元気 いっぱい!

厚陽中学校 吹奏楽部

丘の上に建つ厚陽中学校の校舎からは、放課後になると吹奏楽部の生徒12人が奏でる楽器の音色が風に乗って聞こえてきます。教室を覗いてみると、クラリネット、フルート、トランペットなど大きさも形もさまざまな楽器を手に熱心に練習に励む部員の姿がありました。

部員12人が常に心がけているのは、「一音入魂・感動音楽・思いやり」という3つのテーマ。一つひとつの音に心を込めて、チームワークを大切に、聴いている人に感動を与える音楽を届けたいという気持ちを表したものです。日々の練習の甲斐あって、7月に行われた県の吹奏楽コンクールでは、見事金賞を受賞しました。

～12人の心をひとつに、感動を与える音楽を届けたい～ 厚陽中学校吹奏楽部一人ひとりの熱い気持ちで奏でる心のこもった12の音色は、これからも多くの人に感動を与えることでしょう。



▲チームワークを大切に。12人で日々練習に励んでいます。



▲指揮にあわせ、心をひとつに演奏します。